

Voice of friends

FRIENDS
WITHOUT A BORDER

2016 Autumn & Winter
ニュースレター Vol.40

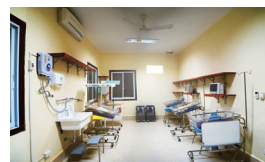




▲手術が可能になったことで、院内でできる治療の幅が広がりました



▲手術室オープンに向けて様々なトレーニングが行われました



▲新たにオープンした新生児室



▲新生児への処置は細心の注意が必要です



▲高性能HEPAフィルターが設置された手術室。忙しく稼働しています

手術室と新生児室が新オープン！

2015年2月に、まずは外来診察のみを行うかたちで開院したラオ・フレンズ小児病院（LFHC）は、入院病棟、救急治療室と、少しずつ規模を広げてまいりました。設備やスタッフのスキルを徐々に充実させながら、無理なく確実に病院としての機能向上を図ろうと考えたためです。命を預かる病院として責任を持って使命を担えるよう、着実にステップアップしています。

そして、2016年7月には、手術室をオープンすることができました。これまでは、手術が必要な患者さんは隣接する県立病院にお願いしていましたが、現在はLFHC内で対応しています。

手術室オープンに向けては、準備に多くの時間を費やしました。まず、数多くの医療器材を揃えねばなりません。そのため経費は小さくなく、かなり前から少しずつ購入したり、ご寄付としていただいたり、購入費をクラウドファンディングで集めたりと、時間をかけて何とか整備することができました。それ以上に時間がかかったのは、スタッフ教育です。麻酔専門の看護師を育成するためにアンコール小児病院（AHC）へ研修に派遣したり、滅菌の専門家を招聘したりして、専門スタッフの養成を行いました。その他のスタッフも、機器の扱い方、患者

さんのケアのしかた、24時間態勢での動き方等等、身につけなければならない知識や技術は山のようにあります。フレンズの理念である「Compassionate care＝心のこもったケア」を実現するためにも、スタッフ教育は、決しておろそかにはできません。

ハード面とソフト面が揃ったところで、手術室のオープニングセレモニーをごく簡単に行い、その日の午後には、LFHC初の手術を無事に終えることができました。

続く10月、今度は新生児室がオープン。抵抗力のない新生児は特別なケアが必要で、またお母さんの授乳にも対応しなければならぬので、一般病棟とは別の部屋があることが好ましいのです。手術室と同様、こちらにも新生児用ベッドや機器を設置したり、ケア方法を研修したりと、ハード・ソフト両面を揃えたのは言うまでもありません。

この二つの部屋がオープンしたことで、LFHCで予定していた部署は、すべて整ったことになります。さあ、ここから、いよいよ本格始動です。今後のLFHCの進化にご期待ください。

第4回ルアンパバーン・ハーフマラソンが開催されました。

今年で4回目の開催となったルアンパバーン・ハーフマラソン。チャリティーとして催されている大会で、2014年以降は、収益金がラオ・フレンズ小児病院（LFHC）の支援にあてられています。

“世界遺産の街を走るマラソン大会”は回を重ねるごとにマラソン愛好家の間で知名度が上がり、今回は、世界各国から約1,000人のランナーが参加しました。これは昨年の2倍以上の人数で、日本からの参加も増えています。また、“チャリティーマラソンである”との認識度も上がっていて、意義を感じながら参加してくれるランナーも増えているとのこと。

そうすると、LFHCのスタッフたちも大奮闘です。当日は、病院に残り院内での業務を引き受ける人、大会ボランティアをする人、ランナーとして出場する人と、スタッフ総出で大会をバック

アップ。おかげで、スタッフ間の絆がいつそう深まることにもつながりました。

資金面、スタッフのチーム力、LFHCの認知度アップと周囲からの理解、等々、終わってみると、このイベントがもたらすものの大きさを感じます。来年はぜひ、みなさんも現地で参加してみたいのではないでしょうか？走っても、走らずに沿道で応援するだけでも、楽しいはずです。毎年10月に開催されていますが、2017年の開催は未発表のため、フレンズのホームページなどで情報をお確かめください。



▲世界遺産の美しい街を、たくさんのランナーが駆け抜けます

サイモン院長からのメッセージ

4月に院長に就任し、24時間365日、常に病院のことだけを考
えている日々です。とても忙しいですが、ラオスへ来る前から覚
悟を決めていましたので、フル回転で頑張っています。そして実
感しているのは、ラオ・フレンズ小児病院 (LFHC) では基本的な
医療に関しては質の高いサービスを提供できる病院だということ
です。ただし、より専門的な医療となると、首都ビエンチャンの
病院に紹介しなければなりません。今の一番の課題は、ビエンチャ
ンにいる専門医や病院との関係構築です。しっかりとしたパイプ
ラインを作りたいと思っています。

これまでに何名かをビエンチャンに紹介しましたが、そこで問
題になっているのは、患者さんの家族がビエンチャンへ行くこと
自体がスムーズにいかないということです。交通費の負担が大き
いことが一番挙げられますが、それは LFHC が負担することで
解決できます。それ以上に問題なのは、家族が村から出たこと
がなく、大きな街へ行くことに恐怖心を抱いていたり、たどり着
いても担当するはずの医師が不在であるなど先方の病院の対応が
まずく、診察もせずに戻って来てしまったりすることです。経済



▲サイモン新院長、スタッフを束ね、心のこもった医療の提供に取り組んでいます

的なことに加えて、それ以外のことが壁をさらに高くしている状況があります。

こんなことが治療の障害になるとは予測できませんでした。そして、この状況が命に関わることになるのはどうしても避けたいという思いが日々募っています。こうした一つ一つの課題を少しずつ解決しながら、LFHC は少しずつ前進しています。これからあたたかく見守っていただけますよう、よろしくお願いいたします。

Readyfor のチャレンジ達成！手術室に HEPA フィルターが！！

手術室のオープンに向けてどうしても設置したかったのが高性能エアフィルター (High Efficiency Particulate Air Filter)、通称「HEPA フィルター」です。大人に比べ抵抗力が弱い小児は、感染症に対し、より注意を払わねばなりません。手術室を清潔に保つことは、小さな命に関わってくるのです。しかし、設備投資のための予算には限りがあります。

この状況を打破すべく挑戦したのが、クラウドファンディングの「Readyfor」。クラウドファンディング (Crowd+ Funding) とは、専用のインターネットサイトを通じて不特定多数に支援を呼びかけ、共感した人たちが広く資金を集める方法です。2016 年 5 月 20 日～8 月 3 日までの 75 日間、赤尾看護師が「Readyfor」を通して、HEPA フィルターの購入資金 250 万円を募るチャレンジを行いました。

クラウドファンディングの特徴のひとつには、「支援が目標金額に達しない場合はプロジェクトが不成立となり、支援金を手にすることができない」という仕組みがあります。つまり、目標以上の金額を手にするか、1 円ももらえないか、ということ。何としてでもチャレンジを成功させようと、フレンズのホームページや SNS、各種イベントなどで広く支援を訴えたところ、たくさんの方々から応援をいただき、無事、目標額を達成することができました。

この達成ができた時点でチャレンジ期間がまだ 51 日残っていたため、少しでも手術室用の物資補充につなげたいと、続けて

第 2 ゴールも設定。手術部位の視野を広げるための機器 (サージカル・ターニケット) や術衣、術布を購入するための資金 100 万円をプラスし、350 万円を目標としました。そして見事に、第 2 ゴールも達成です！

このプロジェクトの成立は、皆さまのお力がなければ成し得ることはできませんでした。あたたかく力強い応援メッセージ、SNS での情報拡散、本当にたくさんのご支援、どうもありがとうございました。



▲写真後方、左右の壁に取り付けられているのが HEPA フィルター。手術室を清潔に保ちます



アンコール小児病院のスタッフが ラオスで大活躍！

ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）の姉妹病院であるカンボジアのアンコール小児病院（AHC）は、LFHC にとって憧れの先輩のような存在です。AHC スタッフにも“先輩”としての自覚があるのが嬉しいところ。AHC のベテランスタッフは、LFHC を見ると、AHC が生まれたばかりの頃の失敗・葛藤・悩み・未熟さなどを思い出し、LFHC スタッフに伝えたいことがたくさん湧いてくるのだといいます。

そんな頼もしい先輩たちが、実際に LFHC にやって来ました！

手術室のオープンに際し、AHC の麻酔科から医師や看護師を派遣してもらえることになったのです。これまで医師 1 名と看護師 3 名が 2 週間ずつ交代で訪れ、指導に当たってくれました。技術を教えるだけでなく、フレンズが最も大切にしている「心のこもったケア」を、現場の者同士で伝え合うことができた、それに勝ることはありません。今後も AHC と LFHC が手を携えて、共に成長していければと思っています。



▲姉妹病院の絆ここにあり！



トレーナー育成研修を実施！

フレンズでは、ミャンマーの現地 NGO 団体「ゴールド・ミャンマー」と協力して、ミャンマーの農村部の子供たちに健康診断や衛生教育等を行う支援活動を行っています。今年から新たにトレーナー研修(ToT)を開始。村のお母さん数名に2日間に渡って研修を行い、そのお母さんたちが自分の村で各自講習会を開催して、近所に住む母親たちと知識を共有するものです。講習会の参加者は約 15 名。子供の成長に合った食事や、家庭での衛生管理など、日常生活に必要な基本的な知識を学びます。最初は指導者側になることを恥ずかしがっていたお母さんも、周囲からの質問に答えているうちに徐々に自信をつけ、講習会が終わる頃には立派なトレーナーに成長していました。初めて講習会を開催したお母さんは、「今後も色々な場所で、講習会を行いたい」と笑顔で話してくれました。

▶栄養講習を行うのはトレーナー研修を受けた村のお母さんです



◀子供たちへの衛生教育も活動のひとつです。手洗い講習の様子

日本人 IT エンジニアが院内 IT を整備

本誌 38 号で、株式会社 NTT データから IT エンジニアをラオ・フレンズ小児病院（LFHC）に派遣していただいたとお伝えしました。これは、NPO 法人クロスフィールズの【留職プログラム】を通じ、実現したものです。【留職プログラム】は、新興国の NPO や社会的企業へ、日本企業の社員を一定期間派遣し、課題解決に取り組むことで団体に貢献することを目指すプログラムです。クロスフィールズが団体のニーズと企業、そして社員の専門性を結び、サポートを行ってくれます。

LFHC では IT 基盤整備がまだまだ必要なため、日本からの技術者は大歓迎を受けました。ぜひとも継続して派遣してほしいとの要望をクロスフィールズに伝えたところ、第 2 弾の派遣が実現！2016 年 3 月から 6 月、株式会社日立製作所より、IT エンジニアの石黒康平さんが来てくださいました。

石黒さんをお願いしたのは、電子カルテの改善です。LFHC では開院と同時に電子カルテを使用していますが、主に外来患者用に設定されたもので、手術室やアウトリーチでの使用・連携については模索している段階でした。石黒さんがこれらの改善と開発に着手してくれたため、院内の電子カルテは大きく進

Supporter

歩。特にアウトリーチ部門ではそれが顕著で、電子カルテが使用できるようになったばかりでなく、地域ごとの患者分布まで記録できるようになりました。LFHC での石黒さんの活躍ぶりは、テレビ東京系列「ガイアの夜明け」でも特集されたので、ご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

あっという間に派遣期間の 3 ヶ月が終了してしまい、院内ではあちこちから、またすぐに戻って来てほしいとの声が聞かれます。前回の佐藤さん、今回の石黒さん、お二方とも院内スタッフに頼りにされ、愛され、素晴らしい成果も残していただきました。関係各位に心より感謝申し上げます。



◀スタッフから尊敬の眼差しを向けられる石黒さん（写真左）

団体設立 20 周年記念ツアー

2016 年 6 月 24 日～29 日 ラオス&カンボジア

フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN の団体設立 20 周年を記念し、ラオスとカンボジアでフレンズの歩みをたどる 4 泊 6 日の特別ツアーを催行しました。通常は立ち入りをお断りしているラオ・フレンズ小児病院とアンコール小児病院で、特別に病院内の見学を実施。また、ラオス・ルアンパバーン市街、カンボジア・アンコールワット群といった二つの世界遺産観光をセットした内容でした。

8 月 1 日には事務局にてツアー報告会も開催。多くの方にお集まりいただき、ツアー参加者を囲んで大いに盛り上がりました。



▲LFHC 入口で記念撮影

K・MoPA チャリティ・ライブ 2016

2016 年 7 月 30 日 清里フォトアートミュージアム



▲左から山岡・井津・赤尾の三氏

清里フォトアートミュージアム (K・MoPA) 恒例のチャリティ・ライブが、今年も開催されました。第 1 部は『小児病院をつくった写真家・井津建郎』をテーマに、フレンズ創設者の井津建郎とノンフィクション作家の山岡淳一郎氏、フレンズ JAPAN 代表の赤尾和美の 3 者によるトーク、第 2 部はピアニストのウォン・ウィンツァン氏のライブ、といった構成。

イベントには 100 名を超える参加者があり、フレンズの物販ブースにもたくさんの方が足を止め、応援の言葉をかけてくださいました。収益金は、ラオ・フレンズ小児病院と、東日本大震災復興支援にあてられます。

東京チャリティ・ガラディナー

2016 年 10 月 14 日 東京アメリカンクラブ

フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー設立 20 周年を記念し、東京では初めてとなるガライベントを開催しました。ガライベントは団体の活動を支援していただくためのパーティー仕様の催しで、ワインやディナーを楽しみながら、この会のために選りすぐった品々をオークションで落札していただくのがメインの企画となります。ニューヨークではフレンズ USA 主催で長年催され、定番化しているイベントですが、諸々の事情から、日本では行わずにありました。このたびは 20 周年の節目に当たることもあり、次に進むステップになればと、フレンズ USA・フレンズ JAPAN 共催という形で開催に踏み切りました。

何事も初めてで、スタッフが戸惑うことも多々ありましたが、海外からお越しくださった方も含め 135 名にご参加いただき、大盛況かつ大成功という結果に。ご参加くださった方々から「楽しかった」「来年もやってほしい」との声がたくさん届いています。

そもそも、オークションというものが日本人にはあまり馴染まないのでは、というのが最大の心配事でした。しかし、やってみると、どんどん手が挙がります。中でも「ラオスでの栄養失調改善を目的としたビタミン B1 購入資金」に対しては、約 80 名の方がご自分の番号札を上げて、支援を表明してくださいました。オークションのための商品もすべて完売です。

フローリストが手がけた会場を彩る花々、ラオス人による本場のダンス、ジャズライブ、特別なディナーとお酒、思い思いに着飾ったゲスト等々、イベントを構成するあらゆるものが、20 周年を祝い、フレンズの活動を応援してくれていると感じられるイベントとなりました。

▼盛況だったオークション風景



▲135 名もの参加者がありました



ラオスを知ろう ラオスの民族衣装

ラオスは多民族国家で、民族の数は 100 以上とも 200 以上とも言われています。民族ごとに伝統的な民族衣装があり、伝統行事や結婚式などの際の正装として装われます。

一方、民族の垣根を越えて、ラオス国内ならどこでも目にすることができる「ザ・民族衣装」たるものが、女性の巻きスカート「シン」です。

ラオスの女性であれば、子供から大人まで、普段の通勤・通学時でも、改まった席でも着用します。シルク製やコットン製、化繊製といった素材の違いや、織り込まれた柄の違いで TPO の使い分けが可能。また、スカートなので、上に着るブラウスや T シャツなどの選び方によっても、フォーマルな装いやカジュアルな装いに変化します。

街の中には、既成のシンやシン用の生地を扱うお店がいくつもあり、目に鮮やかです。そうしたショップの隣近所には縫製を請け負うお店があるのが特徴的で、購入した生地を持ち込んで、シンを仕立ててもらうことができます。



▲店内いっぱいには並ぶ色とりどりのシン生地

さて、4月はラオスのお正月(Pi Mai Lao)です!盛り上がります、盛り上がります!『水かけ祭り』と言うがごとし、どこもかしこも水浸し。ちょっと買い物に行って戻ってきただけなのに、こんなにびっしょり(写真左下)。そして、「負けてられるか。私もかけなくちゃ〜」と街へ繰り出したものの、すごいお返しが来た〜! (写真中下)でも、みんなかけられた後に「カップチャイ(ありがとう)」って言うんですよ。悪いものを流して、いいものをかけてもらうということでしょうね。私も、かなり「カップチャイ」しました。はは!Pi Maiが最高潮になるのは、パレードです。民族のグループや村からのグループなど衣装も色とりどりでそれだけでも楽しい気持ちになれますね。かわいいお猿さんチームも来てさらに和みました(写真右中)。そ

の日はお坊さんも水かけの対象です。お坊さんに水かけして運をもらおうという意味があるようです。びちゃびちゃですが、じっと座っているところ、やはり修行のなせる業ですかね(写真右下)。パレードの最後は、今年のミスルアンパバーンが登場です。きれいですねえ。うっとりします。みんなこの時は、見とれて水かけしてなかった気がします。ふふ。水かけ同様に浴びているのが、ビール。ご近所に呼ばれて行くと、ケースでビールがドーンとありました。3日で7ケース以上だと言っていました。ひゃ〜!〈ラオス2016年3〜4月の出来事〉

Beer!
Beer!

▼お猿さんのお面を付けている
ちびっこ軍団



▲ミスルアンパバーン2016

(失礼いたしました!)



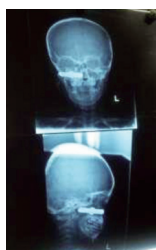
のシャツ

▼かけられたら倍返し! (ちょっと古いですが?)



赤尾 kazumi akao
和美 看護師の

「今月の出来事」から



搬送されて来てすぐ撮影したレントゲン写真



手術を待っている患者さんはたくさんいますが、時には緊急で手術をしなければならないこともあります。左の写真は、顔面への誤射撃による外傷で来た子のレントゲン写真と、摘出された異物です。ラオスでは、食料確保の狩猟のために家庭で作成した銃をよく使っています。それを子どもが遊びに使ってしまい、道端に落ちていたネジのようなものを弾丸代わりにして詰め込み誤って射撃してしまったということらしいです。本来は銃を保持してはいけないことになっているものの、厳しい取り締まりはされていないのが現状です。また、厳しい取り締まりをされたら栄養が取れない子がさらに増えてしまうだろうな、という危惧もありますよね。こんなものすごいレントゲン写真ですが、幸いにして命に関わるころへは達しておらず、2週間後は院内の乗り物のおもちゃで遊んだりできるようになり、3週間を待たずに退院していきました。ほんの少しずれていたら命はないです。ホントにラッキーでした。ラオスでは誤射撃による外傷がすでに4〜5件入ってきていますが、管理する力をつけてもらわないといけないですね。〈ラオス2016年7〜8月の出来事より〉

この2か月で一番嬉しかったのは、ドークオ医師が小児専門医師研修医として、3年間の研修プログラムに受け入れてもらえることになったこと!彼女はラオ・フレンズ小児病院(LFHC)へ来る前にもアフリカでチャリティに関わったことがあり、フレンズが提唱する「心のこもったケア」を地で行く医師です。彼女が3年後に大きく成長して帰って来てくれることが、今から楽しみです!がんばれ〜!

〈ラオス2016年7〜8月の出来事より〉



院内のツッキングデモンストレーションで笑った一面を見せられました



▲はまっては脱出の繰り返し

雨季本番、スーパー仕様の我がラオ・フレンズ小児病院 (LFHC) 車もこの悪路にはやられちゃいました。まだ患者さんの家へ到着する前に泥沼にはまり込み、往復徒歩 4 時間近くかかり訪問を済ませ車へ戻るも運悪くスコール。悪路はさらにコンディションが悪くなり、トラクターを手配

ためにまた5キロ徒歩。トラクターの馬力で牽引してもらいやっと脱出した…と思ったら、その後も 3 回はまり込み、スーパースタッフのプッシュで切り抜けた！合羽の下はみんな素っ裸。スタッフ全員の命が残ったことに感謝して、記念撮影。実際にこういうところから患者さんは来ているんですね。医療が遠い…。〈ラオス 2016 年 7～8 月の出来事より〉



▲「ドロドロの道をひたすら歩くのみ」

開院 17 周年の式典でたくさんの懐かしい顔に出会え、その成長ぶりを見られたことは感慨深いものでしたが、ソムナン君は其中でも一番！ソムナン君、覚えていらっしゃるでしょうか？HIV に感染していて、ご両親を亡くし、第 2 人と主に孤児院で育ちました。アンコール小児病院 (AHC) には HIV 感染症の子が他の感染症の子と一緒に抱えている問題を話し合ったり、薬の飲み方の工夫を話し合ったりする『ピアエデュケーター (仲間による教育者)』という活動をしていました。ソムナン君はその初代リーダーとして、学校が

終わると AHC へ来てボランティアをしていたのです。この右上の写真は 10 年以上前の写真かな。AHC でボランティアをしてそろそろ進路も考えないといけないかと尋ねると、迷う風もなく、「看護師になりたい」と言ったのですよ！いやいや、その時のうれしさと言ったら、なかったです。今思い出してもウルウルしてしまいます。しかし、孤児院では、一人にたくさんのお金を費やすことができないという当時の事情があり、何度か話し合いを重ね、支援金を募る活動することに決めました。その大きな力になってくださったのが、福岡の蒲池真澄医師が抱える

学校の先生方でした。孤児院と支援グループのみなさんのおかげで、このたび 3 年の看護学校を卒業することができました。今では、AHC でパートタイムの看護師として働いています！支援者のみなさんへは毎月必ず学校での状況を報告して送るように言ってあり、きちんと報告していました (あ、時々私の転送が遅くなっておりましたが…申し訳ありません！)。この紙面をお借りして、ここまでご支援してくださった皆様へ心からの感謝の気持ちをお伝えいたします。嬉しい…またウルウルです。

〈カンボジア 2016 年 1～2 月の出来事より〉

▶昔からなかなかのイケメンでしたよ！



▲「いつの間にかこんなに大きくなったっしょー！」

私のブログでもこのお話は取り上げたのですが、やはり多くの方々に知っていただきたく、ここでもまた掲載しちゃいます！フレンズの活動の大前提は『Compassionate care』、心のこもったケアを提供すること。全ての子どもを自分の子どもとして見る (診る) ということ。これはフレンズ始まって以来、揺るぎないことなのです。それを現地に根付かせるために私たち外国人は存在しているわけです。訪問看護の帰路、険しい山道での出来事でした。腰が曲がったお爺ちゃんがドングというお米をより分けるために使うザルのようなものを 5～6 枚肩から下げて歩いてきました。「あ！」と思った瞬間に、既にスタッフが車を停車させ下車。お爺ちゃんに事情を聴いていました。そのお爺ちゃんは喉に傷があり発声することができなく、返答もあいまいでしたが、それでも身振り手振りでコミュニケーションを取り、自分で作ったドングをずーっと歩いて売っているのだということと、1 枚 5,000 キップ (60 円くらいかな) だということが分かりました。「どうせいるものだから」とすぐに値段を確認し、みんな 1 枚ずつ購入することにしました。「手も不自由だから作るのも大変だった

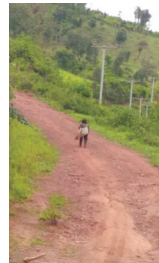
はず。僕はできるだけこういう人から物を買いたいと思ってる」と言っていたスタッフに、Compassionate care を見た！全部買ってあげちゃうとか、高い金額で購入してあげちゃうとかいうような大げさなことではなく、自分のできる範囲でできることをする。基本だなと思いました。残りのドングをまとめてあげて、「じゃ、頑張てね」と見送り、その後ろ姿を見送りながら、LFHC の目指す心が少しずつ芽生えていることに密かにガッツポーズをした瞬間でした。〈ラオス 2016 年 3～4 月の出来事より〉



◀ドングというもので、お米を回しながら不純物を排除していく道具です



▶「ちゃんとほじいたものを結んで持ちやすいように！」



▲お爺ちゃん、一度振り返ってにっこりしてくれました

ご支援について

フレンズの活動にご支援をお願いいたします。

ご支援の方法をお選びいただけます。

- 一般賛助会員：年会費 1 口6,000円
- 学生賛助会員：年会費 1 口3,000円
- 一般寄付：金額・回数自由
- 正会員：年会費 個人12,000円
団体・法人30,000円

＊ご支援いただいた方には、年2回発行のニューズレター、報告会やイベントの案内等をお送りします。

＊正会員は、総会において、団体の意志決定にご参加いただけます（委任状可）。正会員になるためには、当法人が定める入会申込書の提出が必要となります。別途お問い合わせください。

入金方法をお選びいただけます。

- 郵便口座
加入者名：特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN
振替番号：00160-0-546217

- 銀行口座
銀行名：三菱東京UFJ銀行 中目黒支店
口座番号：普通預金0420041
口座名：トクヒ) フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダージャパン

- クレジット決済
インターネットを通じて、クレジットカードでご支援いただくことができます。フレンズJAPANのホームページwww.fwab.jpにアクセスして右上の「寄付をする」をクリックし、手順に沿ってお手続きください。

＊寄付金控除が可能な領収証の発行方法が変わりました。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

＊銀行からのお振込みや、ご自身の郵便口座より直接送金される場合、送金者を特定することができません。お手数ですが、お電話またはメールでご連絡をお願いいたします。

＊アンコール小児病院（カンボジア）に限定したご支援をご希望される方は、その旨を電話またはメールでお知らせください。振込用紙をご使用の場合は、備考欄にその旨をご記入願います。

Information

事務局インターン募集中

フレンズでは、事務局の補佐業務を担当するインターンを募集しています。事務作業、イベント企画・準備、郵送物の発送作業等、事務局作業全般に関わっていただきますが、専門知識は不要です。

募集内容の詳細や応募要項、応募フォームなどは、フレンズのホームページ内「ご協力のお願い」からご覧いただけます。

国際協力NGOで働いてみたい、国際医療に関心がある、広報活動に関心がある、という方は、ぜひご検討ください。お問い合わせも随時お受けしていますので、事務局までお気軽にお問い合わせください。


FRIENDS
WITHOUT A BORDER

www.fwab.jp

特定非営利活動法人
フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN

〒103-0001

東京都中央区日本橋小伝馬町16-8

共同ビル7F

TEL/FAX：03-6661-7558
friends@fwab.jp

Friends Without A Border
1123 Broadway, Suite 1210
New York, NY 10010 USA

TEL：212-691-0909

FAX: 212-337-8052

Lao Friends Hospital for Children
P.O.Box 873, Luang Prabang, Lao PDR
TEL: 856-071-254-247